

日本を感じ中国を知る

北京語言大学学生代表

見学日時：2016年12月5日（月） 16:30-19:30

見学場所：法政大学

見学概要

12月5日午後4時、第19回「走近日企・感受日本」大学生訪日団一行は法政大学を訪れ、3時間余りの学習と交流を行った。日本における一流大学である同大学の教育設備や素晴らしい学習環境はいずれも私たちの興味を引いた。ここで私たちは「現代の遣日使で著名な知日派学者」である王敏教授の講義を拝聴することができた。王教授は2016年の日本における流行語である「神ってる」を基に、宮崎駿のアニメ、そして自然信仰、ユニクロ、無印良品、100円ショップなどの簡素なセンス、および日本は中国伝統文化要素の宝庫であるという3つの面から王教授の日本に対する考察の成果について紹介があり、さらに日本を通じて中国を説明する、中国に日本を観察させるという関連の見解にも言及された。王教授のスピーチは多くの例を挙げる形で奥深くまた分かりやすく、皆は大きな収穫を得ることができ、今回の訪日の意義についてもより深い理解が得られた。その後、訪日団へ王教授自身の書籍が贈呈され、訪日団一行や先生方との懇談会を通じ、相互に交流を深めた。



知っていますか？

問：法政大学が中国近代の政治家や教育家のゆりかごとして評価されていることを知っていますか？

答：法政大学は中国近代の政治家や教育家のゆりかごとして評価されており、清朝末期における法律・政治人材を最も多く輩出した大学で、中国人の日本留学史においても重要な意義を有している。同大学は1904年に清国留学生法政速成科を開設し、その卒業生は中国の法律・政界において広く活躍し、清朝末期の法政学堂の建設や法律・政治人材の育成等の面で非常に大きな貢献をし、同盟会の成立や辛亥革命の成功にも彼らは大きく関わっていた。毛沢東の教官である孔昭綬と、蒋介石や蔣経国の教官である顧清廉、そして中華人民共和国における最初の法典の作者である沈鈞儒はいずれも法政大学出身である。新中国の初代総理の周恩来もかつて先達の重要な使命を引き継ぎ、法政大学付属学校へ通った。

問:日本にはどのような中国の伝統文化の要素があるか知っていますか？

答:日中両国は共に漢字を使用する国であり文化交流も頻繁である。皆さんが承知している書道や茶道以外にも、王敏教授は大禹や養蚕という新たな答を私たちに示した。日本では定期的に禹王まつりが盛大に開かれ、大禹の治水の功績を称え、そして供養をしている。京都御所の「大禹戒酒防微図」も古代の日本にすでに大禹の文化があったことを証明している。統計によると、1894年から1972年の間、日本各地の18ヵ所に大禹の記念碑が作られている。養蚕に関しては、日本の忌宮神社には蚕種の記念碑があり、また歴代の皇后陛下も養蚕を行っている。これらはいずれも日本に多くの中国伝統文化の要素が存在していることを物語っている。

感想

今回の法政大学訪問において、王敏教授の「日本で何を感じるか？」のスピーチはとても印象深く、私たちは日本についてより深い理解をすることができた。

初めて日本を訪れ、その美しい自然環境であれ企業や工場の環境保全理念や社会的責任感であれ、これらはいずれも私たちに深い印象を残した。まさに王敏教授の言うとおり、これは日本人の自然信仰と深いつながりがある。日本人は常に自然を信奉し、手つかずの自然におけるあらゆる自然形態を崇拝する先人が信仰してきた風習を守り続けている。その中でも森林については、世界第三位の森林率を誇り、それもこうした風習のお蔭だと言える。こうした自然や生態との距離感が日本人により環境保全を促し、簡素で上品な生活観をもたらしたのである。かつての福田康夫首相を例とすると、常にエコカーの使用と温故知新を主張していた。

中国の伝統思想にも似た理念があり、「老子」の見素抱朴、少私寡欲、「庄子」の純素之道はいずれも生態文明、簡素な生活の道を含んでおり、漢字文化圏全体に恩恵をもたらした。高速成長を続ける今日の中国において、私達はしばし足を止め、この哲学の知恵としっかり向き合い、今後の方向性について考える必要がある。習主席もグリーン発展を打ち出し、環境への優しさがつまり国民の生活であると強調している。

こうしたことから、日中間の文化交流は今後の両国の発展に大きく寄与していくと考えられる。

